

# 鳥獣の 保護管理

## 地域一体となって獣害対策に取り組む（益田地区）

～ 獣害に強い集落づくりを目指す ～

### 研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。そこで、クマの主要な生息地であり、県内でも早い段階からクマの被害対策等が行われてきた益田市匹見町において、集落ぐるみの対策による実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査から地域一体となったクマ対策等に取り組むための集落へのアプローチの方法を模索しながら、その手法を確立します。

### 研究方法

益田市匹見地区において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。出没・被害状況を集落の土地利用や森林環境などから分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみでの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

### 研究状況

#### ①集落点検とサルの追い払い

集落点検を7月16日に三出原集落と土井ノ原集落(匹見下地区)、11月20日に山根上集落(匹見上地区)で実施しました。3集落の合計24人が参加して、誘引物や柵の不備などを確認して集落点検マップを作成しました。各集落内には、誘引物となるカキ68本、クリ11本およびユズ58本を認めました。参加した住民からは、「車庫に吊ったタマネギも誘引物になるのか。しっかりと管理しよう。」などの意見が交わされた。集落内にある果樹は、クマやサルにとっては魅力的な誘引物になることから、今後の伐採または管理の仕方を検討する必要性がありました。

サル群れの追い払いは、駆除雷とロケット花火で行いました。集落点検後には50～60発/週が鳴っていましたが、12月には1～2発/週に減りました。公民館への聞き取りでは、「7～10月まではサルの出没は多かったが、11月からはほとんど出没しなくなった」ことから、追い払いの効果が始まったと考えられます。

#### ②集落ぐるみでの広域電気柵の点検

匹見上地区は、クマ用のネット型(高さ1.2m)とリボンワイヤー型(4段張り)の電気柵が集落を囲むように山際に約16km設置しており、各集落(電気柵は8か所に区分)が維持管理を行っています。4月に山根上集落、10月に元組集落(写真1)、11月に萩原集落で集落ぐるみでの電気柵点検と修理を実施しました。3集落の合計28人が参加して、下草刈や倒木の除去を行いました。また、萩原集落は、山林内の急傾斜地に設置してあった電気柵を管理がし易いように山際に移動しました。今後は、継続して管理できる手法を提案していく必要があります。



写真1 電気柵点検の様子(元組集落)

### 研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害軽減効果が実証できれば、効果的な取り組みとして、県内全域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾 (さわだ せいご)

問い合わせ先 : 0854-76-3818 (直通)

E-mail : [chusankan@pref.shimane.lg.jp](mailto:chusankan@pref.shimane.lg.jp) (代表)

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組みの効果調査 (研究期間: H24年7月～H28年7月)

